



《現状把握》

【国語】「関心」が高く真面目に取り組む姿勢の生徒が多い。Aの知識では選択式の問題は比較的正答率が高いが、漢字の書き取りやBの活用の正答率が低い。その基盤となる知識が定着していないことが原因といえよう。

【数学】数学の基本となるAの計算問題の正答率が低い。過去の学習内容が定着していないという厳しい結果である。したがってBの活用問題の正答率が低いことにつながった。

《授業改善のポイント》

【国語】国語への関心は全国と比べてとても高いので、引き続き生徒たちの興味・関心を大切にし、さらに「文章力」「表現力」を高めるために意見交換型の授業を積極的に取り入れていく。漢字を正確に読み書きし、適切に使えるように、「漢字コンクール」などを取り入れた指導と練習を継続的にやる。

【数学】各単元で出てくる基本的事項の意味をより丁寧に、より深く理解させる必要がある。そして、1、2年生の関連のある単元の基本的事項にも戻り、意味を再確認していく。また、数学への関心が低いので、少人数授業の特性を生かして、比較的得意な生徒には応用力を、苦手な生徒には基礎力をつけさせ、それぞれの立場で達成感を得られるような授業作りを心がけ、数学力を身につけていく。

《チャートの特徴》

全体を通して全国平均より低い。特に学習面に関係する分野が低く、「学習習慣」に至っては全国平均を大幅に下回っている。これは、時期的に進路に対しての意識がまだ低かったことが原因といえよう。

一方、生活面の分野は比較的高く「言語活動」と「国語への関心」は全国平均を上回った。学年全体としていわゆる「アクティブラーニング」的な取り組みを多くしたことがこのような結果につながったと考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習の充実化に向けての支援を行う。
- ・自分の将来のために学習が大切であることをあらためて生徒が気づくよう「地域ふれあい面接」などの協力を得る。